

令和2年度 江戸川区立西小岩小学校 学校関係者評価 報告書

学校教育目標	学び かがやけ 西小岩の子 考える子 がんばる子 やさしい子 健康な子	目指す学校像 目指す児童像 目指す教師像	・子どもの成長を通して信頼される学校 ・主体的に学び、粘り強くやり抜く子 自他を尊重し合い大切にできる心豊かな子 ・子どもの健全な成長を念頭に置き、自らの職責を果たす人間味あふれる教師
前年度までの学校経営上の成果と課題	<成果>落ち着いた学級・学校経営ができた。教育課題実践推進校として、「外国語・外国語活動」の推進ができた。環境整備を重点化し、学習環境や校内環境の整備を図ることができた。 <課題>学力の向上を図ること。(教員の授業改善) 保護者の理解を得た特別支援教育の推進。		

教育委員会重点課題	取組項目	評価の視点	具体的な取組	数値目標	自己評価		学校関係者評価		来年度に向けた改善策	
					取組	成果	成果と課題	評価		コメント
特色ある教育の展開	小中連携教育の推進	「小中連携教育構想」及び「各教科等の連携教育プログラム」による連携の充実	・小中連携プログラム「NorthWest&Fourth」を基に家庭と連携を図って取り組む。	・家庭学習の取り組み80%以上 ・家庭で基本的な挨拶ができる80%以上 ・校内で進んで挨拶ができる80%以上	A	B	挨拶については家庭96%、学校88%で目標達成。家庭学習については77%で目標まであと一歩であった。学年によって家庭学習に取り組む姿勢に差があるので、さらに推進していく。	B	小中連携プログラムは家庭に配布し、地域の掲示板にも年間掲示している。具体的な取組はコロナ禍で難しくなったと思う。学校・家庭・地域で子どもを育てられるよう意識を高めていきたい。	家庭学習定着に向けて、4月に学年に応じた取組を示し、全家庭で取り組むよう促していく。
	専科教員による外国語教育・外国語活動の推進	コミュニケーション力を主とした、系統的な授業の実践	・3年生以上の全授業及び1・2年生における年間2回以上の授業実践	・児童アンケートで外国語・外国語活動が楽しいと回答80%以上	A	A	児童アンケート80%。今年度より専科教員による一貫性のある外国語の授業を実施している。	A	最初に学ぶ外国語なので、外国の方に教えていただけると自然な英語が身に付くのではないが、	各学級1回は子どもの様子を参観できるようにする。
	全校俳句	俳句作り全校で取り組み、感性を磨く。	・年間4回の俳句作り ・校内俳句コーナーに掲示	・児童アンケートで俳句作りが楽しいと回答80%以上	A	A	90%の児童が季節ごとの俳句づくりに楽しく取り組んでいる。	A	継続して取り組んでほしい。地域の人材を活用してもよいと思う。	年間4回取り組み、年度末に俳句集を作成する。
	1年生からの算数習熟度別授業	習熟度別指導による授業の充実	・全単元で実施(1年生は2学期から実施)	・児童アンケートで算数に分かるようになったと回答70%以上 ・ペーシックドリル70%通過率、低学年85%、高学年80%	B	B	低学年は目標達成。4年生79%、5年生56%、6年生57%で目標値を下回っている。4年生以上の学習内容の定着が課題。	B	算数は分らなくなる嫌いになるので、基礎をしっかりと身に付けることは大事。全校で取り組むことで成果が期待できる。	ステップアップタイムで東京ベークリールに全校で取り組む。
教員の資質向上	教員研修の充実	ICTアシスタントによる校内研修の実施によるICTを活用した教員の授業力の向上	・ICT研修・・・年3回 ・校内ICT研修・・・年3回	・プログラミング教育、ICTの効果的活用について理解を深めた教員90%(教員アンケート)	B	B	授業でICTを有効活用し教育効果を上げていた。さらに有効活用できるよう理解を深めていく。	B	4月からどのように一人1台のタブレットを活用するのよく分からない効果があるといふ。	GIGA構想に基づき、効果的な活用を計画、推進できるようにする。
	特別支援教育の推進	校内委員会の活性化を図ることによる指導・支援の充実	・校内委員会・・・年5回 ・校内研修・・・年3回	・特別支援教育の理解を深めた教員100%(教員アンケート)	B	B	教員により差がある。校内体制としてきちんと位置付けていく。	B	エンカレッジルームについても保護者に知らせる。多くの子どもたちが活用していることを知った。	保護者への理解を得るよう情報を発信していく。
	校内OJTの充実	西小岩スタンダードの徹底と主任(教諭)・学力向上委員会の推進	・企画会の裏でOJT研修年10回 ・学期ごとに西小岩スタンダードの振り返り	・OJTが学びとなった教員100%(教員アンケート) ・学びを授業に生かしている教員100%(教員アンケート)	A	B	企画会議の裏で月1回実施できた。主任教諭が講師となり、若手教諭のニーズに応えていた。	B	先生方も大変な中、よく研修をしていると思う。	さらに計画的に実施していく。
	校内研究の充実	国語科を軸に知識・技能を身に付けさせ、思考・判断・表現力を向上させる授業の充実を図り、授業改善意識を高める。	・研究授業・・・年6回	・2月の実施調査で全学年ポイントアップ ・児童アンケートで説明文が分かるようになったと回答70%以上	A	B	各学年1回の研究授業を実施し、国語科の理解が深まった。縦、横の系列系統を考えた研究を深め、本校の学習スタイルを構築していく。	B	国語の力は何を学ぶにも大切だと感じる。日々先生方が研修を深めていることを知った。	研究推進委員会を中心に、低・中・高のブロックごとに深める体制を整える。
いきいきと学ぶ教育の充実	教員の授業力向上	教材研究を深め、思考・判断・表現力を向上させる授業の充実	・授業観察・・・年3回以上	・全教員が改善の見られる授業の実施 ・改善に努めた教員100%(教員アンケート)	A	A	年間3回以上の授業観察実施。教員同士も授業を見合って助言することが多く見られた。	A	先生方の日々の努力に保護者として協力しているといふ。	教員一人一人が自己の授業における課題を明確にして授業を参観し、改善していく。
	確かな学力の向上	「確かな学力向上推進プラン」の実施、改善や補習の実施などによる指導の充実と授業力の向上	・算数に特化した補習(2年生以上) ・ステップタイムの計画的推進	・補習対象児童アンケートで算数に分かるようになったと回答80%以上	A	A	外部講師による補習を実施。算数の力が付いてきた児童が多い。	A	外部講師が補習をすることで、子どもたちの理解が深まり、先生方の負担が減ることは区の施策としてよいと思う。	現学年以前の学習内容の理解が十分ではない児童の底上げに努める。
	読書科の更なる充実	学校図書館の整備・活用の推進や探究的な学習の充実 ・読書科ノートの活用など、探究活動、探究的な学びの充実	・読書月間の設定・・・10月、2月 ・全校読書科ノートを活用した授業の実施・・・2回以上	・全学年「江戸川区調べる学習コンクール」に応募 ・児童アンケートで本を読むのが好きと回答90%以上	A	B	全児童が調べる学習コンクールに応募。入賞した児童もいる。本好きな子は80%とどまり、さらなる読書の時間の工夫が必要。	B	地域・保護者からも「読み聞かせボランティア」や「子どもに読ませたい本」を募ってみるのもよい。	読書科の工夫。学力向上委員会が検討し、全校で取り組む。読書科の計画の改善を図る。
	体力の向上	体育の授業や休み時間における主体的な運動の実施による運動意欲の向上	・体力テストの実施 ・元氣アップタイムの充実 ・体育の授業の改善と充実	・児童アンケートで運動が好きと回答85%以上	A	A	運動が好きな児童91%	A	持久力を高めるには継続した取組であることが高い目標を示した取組を期待。頑張る力はすべてに通じる。	持久力を高める取組も、体育の授業改善に努める。
外国語教育の推進	オリパラ教育の推進	「オリンピック・パラリンピックレガシー創造プラン」に基づく取組やオリパラコーナーの充実	・オリパラコーナーの更新・・・3回以上 ・オリパラ授業・・・2回以上	・リアルタイムでオリパラコーナーの更新ができた。	C	C	今年度は思うように取り組めなかった。オリパラコーナーの更新は回数できた。	C	コロナ禍では計画通りに進めることは難しくなったと思う。	バラスポーツの理解、西小岩2020レガシープランの実践に努める。
	外国語教育の推進	授業力の向上とALTの効果的な活用	・専科教員による系統的な指導	・児童アンケートで外国語・外国語活動が楽しいと回答80%以上	A	A	児童アンケート80%。今年度より専科教員による一貫性のある外国語の授業を実施している。	A	最初に学ぶ外国語なので、外国の方に教えていただけると自然な英語が身に付くのではないが、	各学級1回は子どもの様子を参観できるようにする。
	健全育成に向けた取組の強化	いじめ・不登校の未然防止に向けた魅力ある学校づくりの取組の充実 ナルドレン・サポートチームや生活指導連絡協議会の活用	・生活指導連絡会・・・毎週水曜日 ・心のアンケート・・・年3回 ・道徳授業の充実	・いじめゼロ、早期対応で解決 ・児童アンケートで学校が楽しいと回答90%以上 ・道徳主任の授業公開・・・2回以上	A	A	学校が楽しい92% 児童アンケートで学校が楽しいと回答90%以上 道徳主任の授業公開・・・2回以上	A	子どもたちが安心して通える学校であることを今後コロナ禍で学校の役割を再認識できた。今後も安心・安全に努め、心の教育を推進していく。	生活・児童支援部の活性化を図り、学校全体での育成に取り組む。保護者向けの話を依頼する。感じる場を見る。協力・相談ができることよい。
その他	開かれた学校・情報の公開	コロナ禍において、学校の取り組み、様子を保護者に積極的に公開する。	・HPの更新・・・月2回以上 ・「学校便り」、「校長室の窓から(校長便り)」の充実	・学校アンケートで学校の様子が分かれると回答80%以上	A	A	93%で目標達成。さらに、情報を分かりやすく配信するとともにHPの充実を図る。	A	HP、学校からの手紙で様子を知らることができる。保護者の要望・受け止めは様々で大変だと思いが、子どもにとって良いことを進めてほしい。	HPの充実 保護者が学校の様子を見に来られる機会を増やす。
	働き方改革の推進	生産性のある効果的な働き方の実現 ライフワークバランスの充実	・毎月の勤務時間及び指導内容の確認と指導助言	・19時前退勤、時間外勤務時間45時間以内の教員90%	A	B	教員の努力が見られた。今後もライフワークバランスを心掛けさせる。	B	生活指導・保護者対応に多くの時間を費やしていることが分かった。本来の仕事に時間をかけられるよう協力したい。	平日を効率的に生かすよう意識改善を図る。